

IAIS 市中協議文書 「GME IIM 評価手法の見直し」に意見提出

日本損害保険協会(会長: 舩曵真一郎)は、保険監督者国際機構(IAIS)が2025年6月19日から8月18日にかけて市中協議に付した「GME IIM評価手法の見直し」に対する意見を提出しました。 当該意見は、添付1をご参照ください。

1. 市中協議の概要

- ・ IAIS は、グローバル保険セクターにおけるシステミックリスクを特定し、評価することを目的にグローバル・モニタリング・エクササイズ(以下、GME)を実施しており、この一環で、個別保険者モニタリング (Individual Insurer Monitoring(以下、IIM))として、各グループ保険会社のシステミックリスクの集中度を年次評価してきた。
- ・ この IIM の評価手法は3 年毎に見直しがなされ、その見直しの中で、保険市場環境の変化や保険セクターの構造的変化を反映させる。
- ・ 今回の市中協議の目的は、次の3年サイクル(2026-2028年)に適用するIIM評価手法の見直しに対して、ステークホルダーの意見を求めるものである。寄せられた意見を基に、IIM評価手法の最終化に向けて検討され、更新版のGME市中協議文書に反映される予定である。

2. 損保協会意見(抜粋)(詳細は添付1ご参照)

- ・ 保険セクターのシステミックリスクを適切に把握し、評価するためには継続的な分析が必要であり、そ の点で、IIM評価手法や補助的指標を継続的に見直し、改善を行うことを歓迎する。
- ・ 一方で、その IIM 実施においては、プロポーショナリティの原則を徹底することと共に、通常、各社が 保有していないデータ等の提供のために新たに作成することは、保険会社にとって過度な負担になるた め、その提出の際にはベストエフォートでの対応になることを理解頂きたい。
- ・ これまで GME の実施の際には、仕様書、およびワークショップの開催のみで作業を行ってきており、判断に支障が生じることも多く、その確認にも時間を要している。そのため IAIS は、これまで実施してきた 6 回の GME のノウハウの蓄積を活用し、これまでの各法域からの主要な質疑応答(Q&A)を整理し、保険会社に共有することを期待する。

当協会は、IAIS における国際保険監督基準策定の議論に積極的に参加しており、今後も市中協議等に際して本邦業界の意見を表明していきます。



No.	質問(仮訳)	損保協会意見案(和文)	機構(IAIS)「GME IIM 計画于伝の見直し」に関する損保協会意見案(英文)
1	レベル 3 資産指標の	「会計処理の違いより生じている歪みを是正し法域間の比較可能性	We agree with the idea of improving comparability across
	改訂案について、手	を向上させる」という考え方には賛同する。この目的のため、	jurisdictions by correcting discrepancies arising from differences
	法の正確性と一貫性	 row30.4、30.5.1 を Level 3 Assets indicator に含める改訂と理解し	in accounting treatment. For this purpose, we understand that the
	に関してどのように考	たが、公正価値、取得原価、または償却原価等、異なる会計基準の	Level 3 Assets indicator have been revised to include rows 30.4
	えるか。	金額が合算される点に一貫性が見られない。正確性の観点からは何	and 30.5.1. However, there appears to be a lack of consistency in
		らかの整合性を確保することが望ましいが、一方で、法域、保険会社	the aggregation of amounts under different accounting standards,
		により会計基準が異なることから統一することは困難でもあるため、改	such as fair value, acquisition costs, or amortized costs. While
		訂の結果として得られるレベル3資産の評価金額を単純比較すること	some consistency would be desirable from an accuracy
		は難しい点に留意が必要である。	perspective, unification is difficult due to differences in accounting
			standards across jurisdictions and among insurers. Therefore, it
			is important to note the difficulty of simply comparing the valuation
			amounts of Level 3 assets resulting from the amendment.
2	レベル 3 資産指標の	各法域における会計基準の違いにより、レベル 3 資産の評価金額に	It should be noted that differences in accounting standards across
	新定義案に関連する	大きな乖離が生じ得る点には留意が必要である。例えば、保有する	jurisdictions can result in large discrepancies in the valuation
	潜在的な課題、限	非上場株式は、日本基準では取得原価により評価され、IFRS 基準	amounts of Level 3 assets. For example, unlisted equity holdings
	界、または意図せざる	では公正価値により評価されるため、結果に差異が生じうることから、	are valued at acquisition cost under Japanese accounting
	結果はあるか。	定義を定める際は慎重に検討いただきたい。	standards and at fair value under IFRS, which could lead to
			differences in results. Therefore, we believe careful consideration
			should be given when establishing definitions.
3	提案されているレベル	30.4 および 30.5 について公正価値評価を求める場合には、保険会	Regarding Row 30.4 and 30.5, when fair value assessment is
	3 資産指標の変更に	社によっては当該評価が困難な場合や算出に過度な時間を要する	required, it is assumed that some insurers may have difficulty in
	関して他に意見はあ	場合が想定されるため、簡便的な手法や取得原価での代替も認める	making such valuations, or may require additional time to make
	るか。	など、ベストエフォートでの対応となることにご理解をお願いしたい。	calculations. Therefore, we would appreciate your understanding
			and agreement that this can be handled on a best-effort basis,
			such as allowing for simplified methods, or substitutions at
			acquisition cost.



		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	『候悟(IAIS)「GME IIM 計画于広り兄旦し」に関りる損休励云息兄
4	複雑さのカテゴリーや	評価項目の設定やデータ要件の明確化を行う際には、各社の作業	When establishing evaluation items and clarifying data
	指標を導入する可能	負荷が過度に増加しないように十分な配慮をお願いしたい。	requirements, we would appreciate it if careful consideration
	性について何か意見		could be given to avoid excessive workload increases for insurers.
	や提案はあるか。		
5	保険グループの総合	資産流動化指標のスコアに調整を導入すること、ならびに流動性リス	We have no objection to adjusting scores based on asset
	的な流動性リスクの尺	クの尺度として ILR を使用することに異論はない。ただし、閾値や乗	liquidation indicators and using ILR as a measure of liquidity risk.
	度に基づき、資産流	数の設定によってスコアへの反映が大きく変わりうることから、その設	However, since the score may vary significantly depending on the
	動化指標のスコアに	定についてはリスク評価の観点でも慎重な検討が望まれる。	setting of thresholds and multipliers, we would appreciate it if
	調整 を導入する可能		careful consideration could be given to these settings in terms of
	性について、何かコメ		risk assessment.
	ントはあるか。その場		
	合、流動性リスクの尺		
	度として ILR を使用		
	することについて何か		
	意見はあるか。		
6	流動性比率の閾値の	流動性比率に関する LRT(閾値)の妥当性については、現時点で具	Since specific figures and the basis for setting them have not yet
	適切な水準について	体的な数値や設定根拠が提示されていないため、この時点でコメント	been provided, we find it difficult at this time to comment on the
	意見はあるか。	を行うことは困難である。今後、LRT を設定する際には、合理的な根	appropriateness of the Liquidity Ratio Threshold (LRT). When
		拠を示していただきたい。また、閾値の設定によって Asset	setting up the LRT in the future, we would appreciate it if
		liquidation indicators への反映が大きく変わりうることから、慎重な設	reasonable grounds could be provided. In addition, as the setting
		計が望まれる。	of thresholds can significantly affect the reflection of asset
			liquidation indicators, careful design is desirable.
7	適用可能なヘアカット	ヘアカットと乗数の適切な大きさについては、現時点で具体的な数値	Since specific figures and the basis for setting them have not yet
	と乗数の適切な大きさ	や設定根拠が提示されていないため、この時点でコメントを行うことは	been provided, we find it difficult at this time to comment on the
	について意見はある	困難である。今後、LRAを設定する際には、合理的な根拠を示してい	appropriate size of haircuts and multiplier. When setting up the
	カゝ。	ただきたい。また、乗数やヘアカットの設定は Asset liquidation	Liquidity Risk Adjustment (LRA) in the future, we would appreciate
		indicators への反映に大きく影響することから、設定にあたっては慎	it if reasonable grounds could be provided. In addition, as the
7	と乗数の適切な大きさ について意見はある	ヘアカットと乗数の適切な大きさについては、現時点で具体的な数値や設定根拠が提示されていないため、この時点でコメントを行うことは困難である。今後、LRAを設定する際には、合理的な根拠を示していただきたい。また、乗数やヘアカットの設定は Asset liquidation	liquidation indicators, careful design is desirable. Since specific figures and the basis for setting them have not yet been provided, we find it difficult at this time to comment on the appropriate size of haircuts and multiplier. When setting up the Liquidity Risk Adjustment (LRA) in the future, we would appreciate

保険監督者国際機構(IAIS)「GME IIM 評価手法の見直し」に関する損保協会意見



### ack まで検討が望まれる。 ### ack まを性質が変更する。 ### ack まを性質を行いています。 ### ack まを性質を行いています。 ### ack までしています。 までしています。 ### ack までしています。 まずををでいます。 まずををでいます。 まずををでいます。 まずををでいます。 まだしています。 まずををでいます。 まずをでいます。		体検血自有国际政権(IIII)「UNL IIII III」「両子伝の光色し」に関する資体励去念だ		
B デリバティブ・データ 簡素化の方向性については、評価項目の明確化や報告負担の軽減 以集の簡素化素について意見はあるか。			重な検討が望まれる。	setting of multiplier and haircuts can significantly affect the
8 デリバティブ・データ 販素化の方向性については、評価項目の明確化や報告負担の軽減 以集の簡素化案について意見はあるか。 9 借入総額からの控除 6 商素化での方向性については、評価項目の明確化や報告負担の軽減 6 の商素化案について意見はあるか。 11 IFL 指標では、相対が金融機関であるデリバティブ債務の集計の商素化では、 12 では、 13 では、 14 では、 15 では、 16 では、 16 では、 16 では、 16 では、 17 では、 18 では、 18 では、 18 では、 18 できる機能でする 18 できる機能でする 18 できる機能でする 18 できる機能できる。 18 できる機能を設定する必要がある。 18 できる機能では、 18 では、 18 できる機能では、 18 できる機能では、 18 できる機能では、 18 できる機能を設定する必要がある。 19 の農業に関係のまたが、 19 の農業に関係の集計では、 19 の農業に関係の表が含み値をは、 19 の農業に関係の表が含み値をない。 19 の農業に関係の表が含み値をなるがジションを 19 の農業に関係の集計では、 19 の農業に関係の集計を関係の表が多さます。 19 の農業に関係の発が含み値となるボジションを 19 の農業に関係の集計を関係の関係を関係を 19 の農業に関係の集計を 19 の農業に関係の関係を 19 の農業に関係の関係を 19 の農業に関係の関係を 19 の農業に関係の関係を 19 の農業に関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関係の関				reflection of asset liquidation indicators, careful consideration is
 収集の簡素化案について意見はあるか。 情人総額からの控除 商業化家について に、評価項目の明確化や報告負担の軽減 の簡素化家について につながるものであり、賛同する。 意見はあるか。 IFL 指標では、相対が金融機関であるデンパライブ債務の集計の簡 大いて意見はあるか。 IFL 指標では、相対が金融機関であるデンパライブを集計する必要があるため、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 ため、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 が現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 できる異性について、その趣旨をご教示いただきたい。また、当該項目を集計する限り、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある。 ため、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 できる異性の質問を対しているがある。 できる異性に関係を対しているが、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 できる異性に関係を対しているが、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 できる異性に関係を対しているが、現行提案では実質的な音素化に繋がらない懸念がある。 できる異性の質問ではない悪ながある。 できる異性に関係を対しているが、現行提案では、実質的な音素化に繋がらない懸念がある。 できる異性に関係を対しているが、現行提案では、実質的な音素化に繋がらない懸念がある。 できる異性に関係を対しているが、現行提案では、実質的な音素化に繋がらない懸念がある。 できる異性に関係を対しているが、関係を対しているが、同者をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 可能性について、きらな必要があるか。 できると異なが表がないかと考える。 できると異なれるか。 できると異なれるか。 できると異なれるか。 できると異なれるか。 できると異なれるか。 でもなどのなができる異なるが、アンフレを考慮して質 産の基準額を引き上 げるという提案にで質 産の基準額を引き上 げるという提案にで可能ではないかと考える。 では、また、当該項目をはないでは、また、当該の目をはないでは、また、当該項目をはないでは、また、当該項目をはないでは、また、当該の目をはないでは、また、当ないでは、また、当ないでは、また、当ないでは、また、当ないでは、また、当ないでは、また、当ないでは、また、当ないでは、また、はないでは、また、はないでは、また、はないでは、また、はないでは、また、はないではないでは、また、はないでは、またいでは、また、はないではないでは、また、はないでは、またいでは、また、はないでは、また、はないでは、また、はないでは、また、はないでは、また、はないでは、また、はないでは、またいでは、また、はないでは、また、はないでは、また、はないではないないでは、また、はないではないではないではないでは、またいではないでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいではないではないでは、またいではないでは、またいでは、まれいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またい				desirable.
できたいででは、いてでは、いてでは、いてできます。 「日本 おおいでは、いっとないないいいいないいいないないいないないないないないでは、いっとないないないないないないないないないいないないないないないないないないない	8	デリバティブ・データ	簡素化の方向性については、評価項目の明確化や報告負担の軽減	As it will help clarify evaluation items and reduce the reporting
特人総額からの控除 の簡素化率については、評価項目の明確化や報告負担の軽減 につながるものであり、費同する。 意見はあるか。 FA 指標では、相対が金融機関であるデリバティブ債務の集計の簡素化が変更がない。 FA 指標では、相対が金融機関であるデリバティブ債務の集計の簡素化が変更がない。 FA 指標では、相対が金融機関であるデリバティブ債務の集計の簡素化が図られている一方で、IFL 指標では同様の対応がなされていない点について、その趣旨をご教示いただきたい。また、当該項目を集計する限り、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある。 FA 存掘業では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 FA 存掘業では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 FA 存掘業では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 FA 存掘する目的で、ILR の計算を簡略化する可能性について、きらな発素はあるか。 「対しているが、両者をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に登する代替業として検討可能ではないかと考える。 FA の計算を簡略化する可能性について、きらな必要がある。 FA の計算を簡略化するで、また の表達なながジションを IFL として個別に集計しているが、両者をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に登する代替業として検討可能ではないかと考える。 FA に対しているが、両者をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に対しているが、面子をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に対しているが、両者をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に対しているが、両者をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に対しているが、を持定して検討可能ではないかと考える。 FA に対しているが、両者をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に対しているが、面子をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に対しているが、面子をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に対しているが、面子をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に対しているが、面子を表示がでするでは、報告を表示を可能ではないがもではないが有するでは、 中枢・アンアンを対しないでは、 「対しないでは、 「対しないないでは、 「対しないないでは、 「対しないないでは、 「対しないないでは、 「対しないないでは、 「対しないないないないないないないないないないないないないないないないないないない		収集の簡素化案につ	につながるものであり、賛同する。	burden, we agree with the direction of simplification.
につながるものであり、費同する。		いて意見はあるか。		
意見はあるか。 FA 指標では、相対が金融機関であるデリバティブ債務の集計の簡素化が図られている一方で、IFL 指標では同様の対応がなされていない点について、その趣旨をご教示いただきたい。また、当該項目を集計する限り、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある。 FFA 指標では、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある。 FFA 指標では、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある。	9	借入総額からの控除	簡素化の方向性については、評価項目の明確化や報告負担の軽減	As it will help clarify evaluation items and reduce the reporting
IFL 指標の更新案に		の簡素化案について	につながるものであり、賛同する。	burden, we agree with the direction of simplification.
### だい図られている一方で、IFL 指標では同様の対応がなされていない点について、その趣旨をご教示いただきたい。また、当該項目を集計する限り、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある。		意見はあるか。		
ない点について、その趣旨をご教示いただきたい。また、当該項目を 集計する限り、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある。 ため、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 ため、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 でする目的で、ILR の計算を簡略化する 可能性について、さらなる場響として検討可能ではないかと考える。 である提案はあるか。 18 インフレを考慮して資産の基準額を引き上げるという提案につい 選定基準を設定する必要がある。 ない点について、その趣旨をご教示いただきたい。また、当該項目を 集計する必要がある。 までは実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 を調査する目的で、ILR の計算を簡略化する 可能性について、さらなる場響として検討可能ではないかと考える。 18 インフレを考慮して資産の基準額を引き上げるという提案につい 変定基準を設定する必要がある。	11	IFL 指標の更新案に	IFA 指標では、相対が金融機関であるデリバティブ債務の集計の簡	In the case of the IFA indicator, the aggregation of derivative
集計する限り、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある。		ついて意見はあるか。	素化が図られている一方で、IFL 指標では同様の対応がなされてい	liabilities of financial institutions has been simplified. However, a
ため、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。 reasoning behind this distinction. Furthermore, if this item is aggregated, it is necessary to aggregate derivatives with financial institutions as counterparties, and we believe that the current proposal will not lead to substantial simplification. 13 データ報告の負担を 現行の集計では、デリバティブ契約が含み益となるポジションを IFA、軽減する目的で、ILR の計算を簡略化する 可能性について、さら なる提案はあるか。 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 にの基案に賛成する。ただし、インフレ率は国や地域が有する背景や特性が反映している場合もあるため、それらを十分に踏まえた合理的 選定基準を設定する必要がある。 とないう提案につい 選定基準を設定する必要がある。 に適しいに関するという提案につい 選定基準を設定する必要がある。 に関するという提案につい 選定基準を設定する必要がある。 に関するという提案につい 選定基準を設定する必要がある。 に関するというに対している場合もあるため、それらを十分に踏まえた合理的 inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate			ない点について、その趣旨をご教示いただきたい。また、当該項目を	similar approach has not been implemented regarding the IFL
aggregated, it is necessary to aggregate derivatives with financial institutions as counterparties, and we believe that the current proposal will not lead to substantial simplification. 13 データ報告の負担を 軽減する目的で、ILR の計算を簡略化する 可能性について、さら なる提案はあるか。 15 インフレを考慮して資産の基準額を引き上 げるという提案につい 選定基準を設定する必要がある。 17 でリンティブ契約が含み強となるポジションを IFA、 Under the current calculation method, positions with unrealized gains on derivative contracts are calculated as the IFA, and positions with unrealized losses on derivative contracts are calculated as the IFA. However, we believe that consolidating both on a net basis could be an alternative option to reduce the reporting burden. 18 インフレを考慮して資産の基準額を引き上 がるという提案に賛成する。ただし、インフレ率は国や地域が有する背景や特性が反映している場合もあるため、それらを十分に踏まえた合理的 inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate			集計する限り、相対が金融機関のデリバティブを集計する必要がある	indicator. We would appreciate it if the IAIS could elucidate the
institutions as counterparties, and we believe that the current proposal will not lead to substantial simplification. 13 データ報告の負担を 軽減する目的で、ILR デリバティブ契約が含み益となるポジションを IFA、 の計算を簡略化する 可能性について、さら なる提案はあるか。 15 インフレを考慮して資産の基準額を引き上 げるという提案につい 選定基準を設定する必要がある。 17 といるが、高者をネットペースで一本化する方式も、報告負担の軽減 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 18 インフレを考慮して資産の基準額を引き上 げるという提案につい 選定基準を設定する必要がある。 18 はいる場合もあるため、それらを十分に踏まえた合理的 は 要に 要求 は			ため、現行提案では実質的な簡素化に繋がらない懸念がある。	reasoning behind this distinction. Furthermore, if this item is
Proposal will not lead to substantial simplification. Proposal will not lead to substantial simplification. Proposal will not lead to substantial simplification. Under the current calculation method, positions with unrealized gains on derivative contracts are calculated as the IFA, and positions with unrealized losses on derivative contracts are calculated as the IFA, and positions with unrealized losses on derivative contracts are calculated as the IFL. However, we believe that consolidating both on a net basis could be an alternative option to reduce the reporting burden. We agree with this proposal. However, we believe that it is necessary to establish reasonable selection criteria for the inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate				aggregated, it is necessary to aggregate derivatives with financial
第一夕報告の負担を 軽減する目的で、ILR の計算を簡略化する 可能性について、さら なる提案はあるか。 現行の集計では、デリバティブ契約が含み益となるポジションを IFA、 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 に適する代替案として検討可能ではないかと考える。 に適する代替案として検討可能ではないかと考える。 に適する代替案として検討可能ではないかと考える。 に適けないかと考える。 に適けないでは、 We agree with this proposal. However, we believe that it is necessary to establish reasonable selection criteria for the inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate				institutions as counterparties, and we believe that the current
軽減する目的で、ILR の計算を簡略化する 可能性について、さら なる提案はあるか。				proposal will not lead to substantial simplification.
の計算を簡略化する 可能性について、さら に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 We agree with this proposal. However, we believe that consolidating both on a net basis could be an alternative option to reduce the reporting burden. We agree with this proposal. However, we believe that consolidating both on a net basis could be an alternative option to reduce the reporting burden. We agree with this proposal. However, we believe that it is necessary to establish reasonable selection criteria for the inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate	13	データ報告の負担を	現行の集計では、デリバティブ契約が含み益となるポジションを IFA、	Under the current calculation method, positions with unrealized
可能性について、さら に資する代替案として検討可能ではないかと考える。 calculated as the IFL. However, we believe that consolidating both on a net basis could be an alternative option to reduce the reporting burden. 18 インフレを考慮して資 この提案に賛成する。ただし、インフレ率は国や地域が有する背景や We agree with this proposal. However, we believe that it is necessary to establish reasonable selection criteria for the inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate		軽減する目的で、ILR	デリバティブ契約が含み損となるポジションを IFL として個別に集計し	gains on derivative contracts are calculated as the IFA, and
なる提案はあるか。		の計算を簡略化する	ているが、両者をネットベースで一本化する方式も、報告負担の軽減	positions with unrealized losses on derivative contracts are
reporting burden. 18 インフレを考慮して資 この提案に賛成する。ただし、インフレ率は国や地域が有する背景や		可能性について、さら	に資する代替案として検討可能ではないかと考える。	calculated as the IFL. However, we believe that consolidating both
18 インフレを考慮して資 この提案に賛成する。ただし、インフレ率は国や地域が有する背景や We agree with this proposal. However, we believe that it is mecessary to establish reasonable selection criteria for the inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate		なる提案はあるか。		on a net basis could be an alternative option to reduce the
産の基準額を引き上 特性が反映している場合もあるため、それらを十分に踏まえた合理的 inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate				reporting burden.
げるという提案につい 選定基準を設定する必要がある。 inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate	18	インフレを考慮して資	この提案に賛成する。ただし、インフレ率は国や地域が有する背景や	We agree with this proposal. However, we believe that it is
		産の基準額を引き上	特性が反映している場合もあるため、それらを十分に踏まえた合理的	necessary to establish reasonable selection criteria for the
で何か意見はあるか。 may reflect the background and characteristics that each country		げるという提案につい	選定基準を設定する必要がある。	inflation rate, taking into full consideration that the inflation rate
may rollest the sacing cand and characteristics that each country		て何か意見はあるか。		may reflect the background and characteristics that each country



		7117	
			or region has.
19	保険者プールにおけ	保険者プールにおける地域のバランスと多様性を強化することに賛	We agree with the proposed amendment to strengthen the
	る地域のバランスと多	成する。ただし、総資産 USD55 billion を超えた保険会社を保険者プ	regional balance and diversity in the Insurer Pool. However,
	様性(総資産 550 億	ールに追加すべきか否かは、当該保険会社の特性や今後の成長性	whether or not to include insurers with total assets exceeding
	米ドルの基準を含む)	など包括的な観点から検討されることが望ましい。	USD 55 billion in the Insurer Pool should be considered from a
	を強化するための修		comprehensive perspective, considering the characteristics of the
	正案について意見は		respective insurers and their future growth potential.
	あるか。		
21	グローバル保険セクタ	システミックリスクを適切に把握し、評価するためには継続的な分析が	Since continuous analysis is necessary to properly identify and
	ーのシステミックリスク	必要であり、その点で、IIM 評価手法や補助的指標を継続的に見直	assess systemic risk, we agree with the ongoing reviews, and
	を評価する GME の	し、改善を行うことに賛同する。一方で、その実施においてプロポーシ	improvement of the IIM assessment methodology and the
	手法に関して他に意	ョナリティの原則を徹底することと共に、通常、各社が保有しないデー	ancillary indicators. At the same time, we would like to ensure the
	見はあるか。	タ等を新たに作成することは過度な負担となるため、その提出にあた	principle of proportionality at the point of implementation. In
		っては、ベストエフォートのスタンスであることに理解を頂きたい。	addition, as it would generally be overly burdensome for insurers
			to create new data that they do not hold, we would like to ask for
		また、現行 GME の実施において、仕様書、およびワークショップのみ	your understanding and agreement to such data being handled
		では作業における判断が難しい点も多い。 GME はこれまで6回実施	and submitted on a best-effort basis.
		されており、IAIS 側もそのノウハウの蓄積が想定されるため、IAIS は、	
		これまでの各法域からの主要な質疑応答(Q&A)を整理し、保険者プ	In implementing the current GME, there are many aspects that
		ールに共有することを期待する。	are difficult to determine from the specifications and workshops
			alone. We recognize that the IAIS has accumulated expertise in
			the GME, which has been conducted six times so far, and we look
			forward to sharing key Q&As from each jurisdiction with the
			insurer pool.
22	IAIS が GME の結果	保険セクターにおけるシステミックリスクの特性は、損保、生保、生損	At last year's GIMAR, it was noted that the characteristics of
	を(グローバル保険市	複合といった業態によって大きく異なる旨、昨年の GIMAR でも指摘	systemic risk within the insurance sector differ greatly depending
	場レポートを通じて)	されている。このため、GIMAR や PIRs 等、GME の評価結果は、生	on the type of business, such as non-life, life, and life/non-life
_			



保険監督者国際機構(IAIS)「GME IIM 評価手法の見直し」に関する損保協会意見

一般に、また参加保	損保それぞれの業態が有するリスクの特性を
険会社に報告すること	た形での分析が期待される。
について、何か意見	
はあるか。	

combined. Therefore, in analyzing the results of the GME evaluations in GIMAR, PIRs, etc., it is expected that the risk characteristics of each type of life and non-life insurance business will be clarified and compared more clearly.